

第2次安曇野市スポーツ推進計画に係る第1回策定委員会 会議概要

1	委員会名	第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会
2	日時	平成29年1月31日(火) 午後7時00分から午後8時50分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎3階 共用会議室306
4	出席者	小池委員、二木委員、鈴木委員、湯本委員、古川委員、加々美委員、太田委員、丸山委員、布山委員、宮澤委員、清水委員、古澤委員、新井委員、古幡委員、一志委員、矢野委員 ※出席委員総数：16人
5	欠席者	古屋委員、内田委員 ※欠席者：2人
6	市側出席者	蓮井生涯学習課長、米倉スポーツ推進担当係長 スポーツ推進担当 平林主事、藤原主事 株式会社KRC
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 1人(株式会社市民タイムス)
9	会議概要作成年月日	平成29年2月7日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 委嘱書の交付
- (4) 自己紹介
- (5) 会長、副会長の選出
- (6) 説明事項
  - ①委員会の概要及び今後のスケジュール等について
  - ②現計画(スポーツ振興計画)の概要及びその実施状況等について
- (7) 協議事項
  - ①市民アンケートの内容等について
- (8) その他
- (9) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ(蓮井生涯学習課長)
- (3) 委嘱書の交付  
(本来であれば手渡しするべきところではあるが、時間の関係上、席に配布して対応)
- (4) 自己紹介  
(これまでの経歴、スポーツについて日々感じていること、この計画に対する思い等含め、それぞれ自己紹介を行う。)
- (5) 会長、副会長の選出  
(各委員からの意見がなかったため、事務局案として、会長を古澤委員、副会長を加々美委員とする提案をし、承認を得る。)
- (6) 説明事項
  - ①委員会の概要及び今後のスケジュール等について  
※事務局より説明(会議資料1～5ページ)
  - ②現計画(スポーツ振興計画)の概要及びその実施状況等について  
※事務局より説明(会議資料6～10ページ)

【以下、意見等】

【委員】 高齢者対象の教室は多くあるが、残念ながら参加者は多くない。

【委員】 体育協会加入の各クラブでも活発に活動している。

## 協 議 事 項 等

【委員】 新しく立てる体育館に様々な意見が出ているが、良いものを建ててほしい。県や中部日本など大きな大会を開くことができれば嬉しい。そういったものを作るために、スポーツの振興につながるような計画を立てていきたい。

【事務局】 この場で新体育館の建設内容について具体的に議論することはないが、10年先を見据えたうえでどういった施設が必要になってくるのか、といったことはご意見を伺っていきたい。

### (7) 協議事項

#### ○市民アンケートの内容等について

※事務局より説明（会議資料11ページ）

【以下、意見等】

【委員】 前回調査の回収率は40%程度であるが、一般的にはどの程度であるか。

【事務局】 市で実施した調査では、30%程度のものから50%を超えるものまでである。今年度実施した「第2次生涯学習推進計画」策定の際のアンケートでは、「スポーツ、健康」に興味があると回答した人が非常に多かったことから、スポーツについて尋ねるアンケートでは多少回収率が上がるかもしれないと期待している。

【委員】 前回の結果を見ると20歳より若い人たちからの回収率が非常に低い。若い人たちの回収率を上げるにはどうすればよいか。

【事務局】 今回の調査は前回調査と比較しながら現状を把握するためのものであり、前回同様程度の回収率が得られれば大きな問題はない。ただ、若い人たちに関心を持ってもらえるような施策のあり方については、ぜひ議論していただきたい。

【KRC】 社会調査においては「20回やって19回は5%以内の誤差で済む」という精度が一つの目安である。そのためには最低400の回答が必要である。前回の調査（841人から回収）も標準的な精度を確保できており、今回もそれをクリアすれば精度としては問題ない。どうしても回答数が足りない属性があれば、団体等へ直接回答をお願いするなどのフォローを状況に応じて後から実施することもできる。

【委員】 回収率を上げるために、例えば事前に学校へ行って、協力を呼びかけるなどした方が良いのではないか。

【事務局】 今回の調査は市民を無作為に抽出して回答してもらうものであり、回答が足りなそうだからと言って事前に特定の属性に働きかけるようなことはしない。まずは結果を出し、その上でもう少し内容を掘り下げたいということであれば、追加で調査をすることもあってもいい。

【委員】 回答者の抽出方法について、「日本人のみ」という条件があるが、それはどういった意図か。

【事務局】 市民から無作為に抽出する際に選ばなければならない選択肢の一つに「外国人の方を含めるか。」というものがある。今回は外国人登録者を含めないこととしたいため、そういった表記をした。理由は、この調査は日本語の質問しか用意していないことから、外国人の方には理解が難しいのではないかと考えたためである。なお、前回調査時との比較では、詳細な記録が残っていないため、どういった対応を取ったか分からない状況である。

協 議 事 項 等

【委員】 「外国人の方とは言葉の壁があるから通じ合えない。」そういった認識を乗り越えられるのがスポーツなのではないか。

【委員】 外国人登録者は何人程度いるのか。

【事務局】 1月の段階で1,300人程度である。

【委員】 バレーボールの団体に参加したいけれど、仕事の関係で転々としていて参加できないという外国人の方の話聞いたことがある。外国人の方は住所が次々と変わってしまうので、アンケートを取るの難しいのではないか。

【事務局】 外国人を対象としたアンケートを作成するという事は難しいが、現在市で取り組んでいるホストタウン構想を進めるなど、政策面においてスポーツを通じた外国人との交流や理解の促進に力を入れていきたい。

【委員】 前回とデータがあまり大きく変わらない方がいいと思うが、外国人が選ばれる確率ほどの程度なのか。

【事務局】 約10万人のうちから2,000人を選ぶ中に、外国人1,300人の中から選ばれる確立はかなり低く、大きな影響はないと考える方が適切である。

【委員】 「日本人のみ」という言い方の問題ではないか。

⇒適切な表現の仕方に変えるが、抽出方法としては外国人登録者を除くということで了解を得た。

【委員】 「20歳以上の方にお伺いします。」という設問があるが、20歳以下に対する設問はないのか。

【事務局】 昔の状況と比べるためにあえて20歳以下の若い方には回答してもらわないようにする。

【委員】 種目名が間違っている部分があるので訂正をお願いします。

【事務局】 訂正します。(バトミントン→バドミントン、空手→空手道、テンコンドー→テコンドー)

【委員】 障がい者スポーツについて、生涯学習課としてはどのように考えているか。現状では、障がい者は学生の間は学校で障がい者スポーツに取り組むことができるが、卒業してしまうと支援や機会がないため、やりたくてもやれない状況である。

【事務局】 今まで障がい者スポーツを主に担当してきた福祉課と協力し、取り組んでいきたい。今回の調査には障がい者スポーツに関する設問もあり、スポーツ推進計画策定の際には皆さんの意見をお聞きし、より良い方策を考えていきたい。

(8) その他

①安曇野市公式スポーツ施設整備計画について (※事務局より説明)

②スポーツ指導者講習会について (※事務局より説明)

【委員】 資料にはファイルに綴じ易いよう穴をあけて配布してほしい。

(9) 閉 会

【会議終了】